

問1 前期には、言語は世界の事実を写し出す絵のようなものであるとする写像理論を唱えたが、後期には、言語の意味は日常生活における多様なルールを伴う言語の使用のなかで決定されるという考え方を提唱し、現代の言語哲学や分析哲学に決定的な影響を与えたオーストリア出身の哲学者は誰か。 （2013年 全国公立入試 類似）

1. ウィトゲンシュタイン 2. ケルケゴール 3. レヴィ=ストロース 4. メルロ=ポンティ

問2 近代的な個人主義が前提とする、社会や歴史から切り離されて自己決定を行う孤立した個人像を批判した思想がある。この思想では、人間は歴史や伝統を共有する社会のなかで他者と関わり、その社会が目指す「共通善」を身に付けることによって初めて道徳的人格を形成できるとされる。このような、歴史や伝統、共通の価値を重視する現代の思想的立場を何というか。

（2025年 全国公立入試 類似）

1. コミュニタリアニズム 2. コスモポリタニズム 3. マルチカルチュラリズム 4. リバタリアニズム

問3 あらかじめ用途が定められている道具とは異なり、人間はまずこの世に存在し、その後に自らの自由な選択と行動によって自己のあり方を決定していく。このような人間のあり方を表現した、フランスの哲学者が提唱した思想上の言葉は何か。 （2006年 全国公立入試 類似）

1. 死への存在である 2. 主体性は真理である 3. 人間は自由である 4. 実存は本質に先立つ

問4 自然状態における人間は、自己保存の欲求である自己愛と、他者の苦痛を嫌う憐れみの情をもつ善良な存在であったが、文明の発達や私有財産制の成立、さらには他者からの評価を気にする世間の評判への執着によって、不平等と悪徳に満ちた社会へと陥っていったとする、18世紀のフランスの思想家が著した書物は何か。 （2024年 全国公立入試 類似）

1. 人間不平等起源論 2. 社会契約論 3. 純粹理性批判 4. 市民政府二論

問5 オーストリア出身の哲学者ウィトゲンシュタインは、その思想の後期において、言語の意味は固定された指示対象との対応によって決まるのではなく、日常生活における具体的な規則に従った言語の使用そのもののなかにあると考えた。このような、多様な言語の営みをさまざまなルールをもつ遊びになぞらえて表現した概念を何というか。 （2013年 全国公立入試 類似）

1. 言語ゲーム 2. 感覚データ 3. 言語コード 4. 論理タイプ

問6 近代以降、人間は自然を支配し自己の主体性を確立しようとして理性を発展させてきたが、その結果、自らが生み出した合理的な管理社会のシステムに縛られ、かえって主体性を奪われるという逆説が生じた。フランクフルト学派の思想家たちが批判した、目的を効率的に達成するための手段や道具と化したこのような理性のあり方を何というか。 （2024年 全国公立入試 類似）

1. 社会的性格 2. 批判的理性 3. 批判的理論 4. 道具的理性

問7 18世紀ドイツの哲学者は、従来の「認識が対象に従う」という考え方を逆転させ、人間の主観が持つ認識能力によって対象を構成し、「対象が認識に従う」と考えた。この認識論における劇的な発想の転換を、天文学上の地動説への転換になぞらえて何と呼ぶか。 （2012年 全国公立入試 類似）

1. デカルト的懐疑 2. ヘーゲルの弁証法 3. コペルニクスの転回 4. スピノザの汎神論

問8 知性を、人間が環境に適応し、直面する課題を解決するための道具とみなす立場をとり、環境との相互作用を通じて未来を展望する能力を「創造的知性」と呼んだ。また、実践的な問題解決型教育を重視し、学校を社会生活の実験場と位置づけた、著書『民主主義と教育』で知られるアメリカの哲学者は誰か。 （2017年 全国公立入試 類似）

1. ジェームズ 2. ローティ 3. デューイ 4. パース

問9 精神と物質を独立した二つの実体とする物心二元論を唱え、物質の本性を「延長」と捉えるとともに、物質世界を神が定めた自然法則に従って動く機械のようなものとみなす自然観を確立した、フランスの哲学者は誰か。 （2004年 全国公立入試 類似）

1. スピノザ 2. デカルト 3. ヘーゲル 4. ベーコン